

令和 5 年度 自己 評価 表

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
- 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。
- 3 地域連携の主体となり、地域に根ざした学校としての役割を果たす。

【今年度の重点目標】

- 1 生徒の進路希望の実現にむけた支援
① 基礎学力の充実
② 探究活動の充実
③ 進路希望の実現
- 2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長
① 挨拶、ルール・マナーの徹底
② 多様性に配慮した他者理解力の育成
- 3 生徒会活動、部活動の充実
① 学校行事への積極的関与
② 部活動の推進
- 4 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り
① 授業改善の取組
② 地域貢献活動の推進
③ 適時な情報発信
- 5 業務改善の推進
① 行事・会議の精選
② 時間外業務の縮減

	具体的項目	令和 5 年度当初			評価結果（9 月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 生徒の 進路希望の 実現に向けた 支援	基礎学力の充実	・ 自宅学習時間調査(11 月)では、1 週間の平均で 1 日当たり、1 年 92.5 分、2 年 98.9 分、3 年 151.7 分であり、4 月の調査結果よりも減少した。 ・ 授業評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1 年 84%、2 年 87%、3 年 93%。	・ 自宅学習時間は、1 週間平均で 1 日当たり、1、2 年が 120 分以上、3 年が 200 分以上。 ・ 学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、各学年とも 90%以上。	・ 自宅学習調査を定期的を実施し、学習状況を把握した上で学習習慣の定着を図るよう指導する。また、学習支援サービスの活用を促す。	・ 5 月の自宅学習調査では、1 週間の平均で 1 日当たり 1 年 145.6 分、2 年 135.6 分、3 年 155.8 分であった。昨年 11 月の平均時間と比較して、各年次ともに自宅学習時間が増加している。 ・ 生徒支援部の学校生活アンケート(9 月)では、「授業があまり分からない・分からない」と回答した生徒が全体で 23%であった。	B	・ 復習の課題を Classi(学習支援サービス)も活用しながら効果的に提供しよう各教科へ協力を求める。
	探究活動の充実	・ 探究部の調査(12 月)において、探究活動により思考力等が向上したとする生徒の割合は 44.6%。	・ 探究活動をとおして、思考力等が向上したとする割合が 60%以上。	・ 主体性等の評価の研究、指導方法の研究(問いづくり・情報分析)を推進する。	・ 探究活動のプログラムの改良を継続的に行っている。 ・ 6 月に総合発表会を開催し、3 年生が下級生に対してこれまでの成果を伝えることができた。 ・ 探究部の第 1 回ふるさとキャリア教育アンケート(9 月)において、思考力等が向上したとする割合は 40.6%であった。 ・ 思考力等の向上を図るために、企業連携において企業と生徒とのディスカッションを含めるなど内容を改善した。	C	・ 探究活動を主体的な活動とするためのプログラム開発は今後も検討が必要。また、生徒の興味関心をより引き出す資料づくりや指導者のスキルアップを図るための情報提供等がなお一層必要である。 ・ 企業連携の内容改善を検証し、充実を図りたい。 ・ 評価基準を継続して検討し、より確度の高い評価方法を構築することで、指導方法の改善に繋げる。
	進路希望の実現	・ 学校評価アンケート(12 月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は 87%。 ・ 進路志望調査(10 月)では、国公立大学志望者は 1 年 120 名(49.6%)、2 年 111 名(51.5%)、3 年 99 名(40.7%)。専門学校志望者は医療・看護系を中心に 1 年 45 名(18.6%)、2 年 32 名(13.2%)、3 年 54 名(22.2%)。 ・ 令和 5 年度入試共通テストの出願は 132 名(54.3%)であり、国公立大学の現役合格者数は 43 名。	・ 進路実現に向けて努力している生徒の割合が 1 年 75%以上、2 年 90%以上、3 年 95%以上。 ・ 国公立大学の現役合格者数が 60 人以上。	・ 高い志望を掲げて努力する生徒を育成するために、各類型の特色を踏まえながら進路関係行事を充実させ、生徒の進路志望の実現を図る。	・ 進路志望調査(4 月)による国公立大学志望者は 1 年 107 名(45.0%)、2 年 124 名(51.9%)、3 年 106 名(44.2%)であり、2 年生が多かった。私立大学を含めた 4 年制大学の志望者は 1 年 132 名(55.4%)、2 年 154 名(64.4%)、3 年 185 名(77.1%)であり、1 年生が少なく進路志望の多様化が進んでいると思われる。2、3 年生については例年並みかやや増加傾向が見られる。 ・ 1 年生では「大学生に聞く」、2、3 年生では「キャリア設計講演会」を実施した。 ・ 「難関大へ行こう講演会」には希望生徒 110 名、「鳥取環境大説明会」には希望生徒 37 名が参加した。 ・ 県教委による「未来の教師プロジェクト」及び本校主催の「未来の教師塾」には、いずれも生徒十数名が参加した。 ・ 令和 6 年度大学入学共通テストの出願者数は 121 名(50.4%)であり、令和 5 年度より 11 名減少した。	C	・ 進路情報を主体的に収集・活用できる環境を充実させ、自主的に大学研究を行わせたい。そのためには、進路指導室や自習室において、情報端末を使用した情報収集や学習ができるようにする。 ・ 引き続き、面接指導や LHR に資する有用な資料を紹介・提供する。 ・ 進路志望の多様化について、面接や LHR 等で実態把握を行い情報共有する。 ・ 各大学の入試結果や志望動向をもとに入試情報を分析・研究し、生徒への進学指導に活かす。 ・ 講演会等をとおして、国公立大学の魅力を継続して伝えていく。

	具体的項目	令和５年度当初			評価結果（９月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
２ 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長	挨拶、ルール・マナーの徹底	・学校評価アンケートでは、99%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。なお、生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は 100%、職員の割合は 94%。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が 98%以上。 ・改正した校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。	・挨拶の大切さやルール・マナーを遵守する意義を理解させ、自主的に守るよう指導する。 ・生徒保健委員会による生活リズムアンケートを実施し、保護者との連携を図りながらスマートフォン等の適正利用について指導を継続する。	・生徒は挨拶やルールを守ることの大切さを概ね理解しているが、スマートフォン等の利用については、校内での無断使用、家庭での利用時間、SNS の扱い方等に課題がある。 ・制服在り方検討委員会を開催し、制服の見直し等を通して、校則について生徒に考えさせている。 ・生徒保健委員会による生活リズムアンケートを実施した。その結果を保健委員長・副委員長が考察し、保健便りで報告した。	C	・SHR や学年集会等の時間を活用し、スマートフォンの利用を含めて継続的にルールやマナーの遵守について考えさせる。 ・校則の見直しについては、制服の見直しと合わせて生徒会と連携しながら継続して議論していく。 ・生徒保健委員会による生活リズムアンケートは継続して実施する。保健委員長・副委員長を中心とした委員会活動を行い、保健 LHR の企画・運営や保健便り等で啓発をしていく。
	多様性に配慮した他者理解力の育成	・学校評価アンケートでは、生徒 86%、保護者 74%が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・生徒 80%、保護者 72%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。 ・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っている と回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。	・多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を身に付け、他者への共感や思いやりなどの豊かな人間性を育む教育を推進する。そのために、日頃の観察や面談、心理検査等とおして生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う。 ・家庭や地域との連携を密にし、地域全体で生徒の健全育成に取り組む。	・きめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、さらに校内での情報共有や連携を深めることで、生徒に関する幅広い情報の収集と多面的な理解に努めている。 ・PTA あいさつ運動や「愛し愛され運動」の実施をとおして、学校と家庭や地域が連携し、生徒の健全育成に取り組んでいる。	B	・学校生活アンケート、Hyper-QU の調査結果を踏まえ、要支援生徒を中心に、悩みを抱えている生徒の情報共有を行い、認知行動療法やマインドフルネスといった手法を用いた個別支援を継続する。また、家庭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等と協力した適切な支援を継続する。
３ 生徒会活動、部活動の充実	学校行事への積極的関与	・学校評価アンケートでは、HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は 80%。	・HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が 80%以上。	・諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画、実施に取り組めるよう図るとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。	・生徒会執行部が主体となった学校祭が実施できた。３ 学年の縦のつながりを重視した企画にも取り組むことができた。	B	・定期的に生徒の委員会を開催し HR 役員、生徒会執行部としての活動をより充実させる。
	部活動の推進	・学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は 40%、ややできている生徒が 41%であったが、あまりできていないと全くできていないという生徒は 19%。 ・全国大会へ出場した生徒は 67 名(実人数)。	・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が 60%以上。 ・全国大会に出場する生徒数が 80 名以上。	・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるような確な方針や計画・目標等を設定するとともに、学習との両立を支援する。	・9 月末段階で全国大会に出場した生徒数は 39 名(実人数)。(昨年度同時期 27 名) 陸上競技部 1 名、男子ホッケー部 15 名、女子ホッケー部 15 名、柔道部 4 名、剣道部 1 名、放送部 3 名。	C	・現段階で昨年度の実績を上回っているが、目標の 80 名出場に向けて、引き続き年度後半も、意欲的で活気に満ちた練習に取り組む。
４ 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り	授業改善の取組	・昨年度は全 9 教科で公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めることができた。 ・ICT 活用の促進ための校内職員研修を 12 月に実施し、職員のスキル向上を図った。	・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も参観することで授業改善の参考とする。 ・教員の ICT 活用力を向上させ、生徒の理解向上を図る。	・全教科による公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。	・本年度は 17 名が研究・公開授業を実施する予定であり、9 月末時点で 7 名(7 回)が実施済みである。7 名のうち 3 名は、ICT(個人端末等)を活用した授業に取り組んだ。	C	・他教科の参観を積極的に勧めると共に、参観した内容を教科会等で情報共有し、授業改善の参考とするよう促す。
	地域貢献活動の推進	・学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は 89%。 ・探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は 53.6%。 ・昨年度「第 1 回愛し愛され運動(6 月)」には、346 名(全校の 45.6%)の生徒が参加。第 2 回(10 月)では 1、2 年を中心に 198 名(全校の 27%)が参加し、1、2 年の参加率は 40.8%。	・学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考える生徒が 90%以上。 ・地域理解が深まったとする生徒の割合が 60%以上。 ・「愛し愛され運動」への参加者が各回とも全校生徒の 40%以上。	・小中学校との交流行事や探究活動での地域及び企業等との連携を充実させる。 ・地域の清掃活動や挨拶運動に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。	・2 年翠陵探究の鳥取大学連携・企業連携は計画通り実施できた。 ・ふるさとキャリア教育アンケートによると、地域理解が深まった生徒の割合は 53.9%。 ・3 年探究活動の数チームは八頭町内の小中学校を訪問し、成果発表や交流会を行った。 ・企業連携の商品「やざレーヌ」が販売され、八頭町に貢献できた。 ・6 月に実施した「愛し愛され運動」には 413 名が参加した。全校生徒の約 57.9%が参加し、目標の 40%を大きく上回った。部活動以外の一般参加の生徒は 17 名であった。	B	・八頭町内の高校として、より地域との連携を深め、貢献できるよう教育活動の改善を図る。 ・10 月下旬に実施する「第 2 回愛し愛され運動」には部活動以外の一般参加の生徒が増えるよう執行部だけでなく、家庭クラブ委員とも協力し呼びかける。 ・スポーツテスト補助以外の交流活動を充実させ、八頭高の魅力を伝える取組となるように検討する。

	具体的項目	令和5年度当初			評価結果（9月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り			前ページの続き		- 吹奏楽部が船岡地区、若桜駅、郡家駅など地域へ出向き演奏会を行った。 - 看護医療類型では、夏休みに八頭町内の福祉施設でボランティア活動を行い、9月には八頭町内の店頭2カ所で認知症についての啓発活動を行った。 - 体育類型による郡家西・東小学校スポーツテスト補助を実施した。		前ページの続き
	適時な情報発信	学校評価アンケートでは、学校のホームページ(HP)が学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が84%、保護者が78%。	HPやSNSにより、学校の様子をよく伝えていると考える生徒、保護者がともに90%以上。	学校の様子を分掌や教科、部活動などの単位でHP等とおして発信する。	- 学校行事毎にHPの更新を随時行うように努めた。 「新着情報・お知らせ」ページでは、各分掌や部活動が積極的に担当する活動を掲載しているが、HP全体が情報を探しにくい構成になっている。 8月から本校公式のInstagramを開設した。	C	- 分掌、部活動単位でのHP担当者を決め学校の魅力発信につながるHP作成・更新を行う。 - ICT支援員にHPの再構成について技術的な指導を受け、「見やすいHP」に修正する。
	行事・会議の精選	例年を踏襲している行事が多く、全体をとおして日程が詰まっており、時期によっては行事、会議が集中することがある。	できるだけ縮減する方針で行事の見直しが行われ、会議は短時間で効率よく終わる。	行事、会議の開催ごとに、その効果と課題を検証し、今後の改善及び精選に繋げる。	- 探究活動の充実を図り、3年経過した。行事等の見直しを後期に行いたい。 1、2年生の成績処理に要する時間が以前より増加していることから、1学期末・2学期中間の成績入力締切期限を急遽延長した。 - 土曜質問教室や放課後自習教室は、アシスタントティーチャーの確保が困難であり活用も限定的であったため廃止した。 - 校外模試の精選を行った。 1年のキャリア設計講演会を廃止し、「大学生に聞く」に一本化した。	D	- 探究活動の行事の精選を図り、より効率的で有効な体制を構築する。 - 予め1、2年と3年の成績入力期限を考査毎に分けて設定しておく。 - ハイレベルセミナーの効果等について検証し、実施の在り方について検討する。 - 補習、勉強合宿の効果的な実施について見直しを行う。
5 業務改善の推進	時間外業務の縮減	- 令和4年度、時間外在校等時間が月45時間を超えた教職員が月平均8.2名、年間360時間を超えた教職員が18名。 - 令和4年度、年次有給休暇取得状況は、1人当たり14日。	- 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員が月平均5名以下、年間360時間を超える教職員が10名以下。 - 年次有給休暇取得が1人平均14日以上。	業務内容を精査した上で縮減に努めるとともに、業務を分担し平準化するよう配慮する。	- 行事の内容を簡素化するなどして、3年経過した。ある程度業務内容を縮減してきたので、今後は行事の精選を図りながら、業務の平準化を図る必要がある。 - 推薦委員会資料の作成について、担任によるデータ入力の負担が減るようシステムの改善を行った。 - 放課後補習の実施方法・回数を見直し、教員の負担が軽減するよう計画・実施した。	C	- 定期考査後の一定期間を短縮授業とし、成績処理の時間を確保するよう検討する。 - 資料作成や会議の時間でさらに縮減できるところがないか検討する。 - 生徒のニーズを満たしつつ、教員の負担を軽減していく補習等の在り方について工夫していく。 - 必要に応じてPTA模擬試験等実施委員会と協議し、校外模試の回数を検討し、監督業務を軽減したい。

評価基準 A：十分達成 [90%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]